



設計案が決まるまで

駅舎の取り壊しにより、利便性が低くなると考えられたため、市で西浦駅に待合所を整備することになりました。地域に愛される待合所にしたい、そして次世代を担う学生たちに挑戦する機会を提供したいとの想いから、本市初となる学生設計コン

ペの開催を決めました。駅は、電車を利用する人だけでなく、そこに暮らす人にとっても、人との出会いや交流の場となることから、「電車待ちだけじゃないみんなで使うまちの待合所」をテーマに、全国から設計案を募集しました。

2023年6月11日、1次審査を行いました。北は北海道、南は沖縄から、377作品の応募がありました。プレゼンテーションは1チーム1分の予定でしたが、予想をはるかに上回る応募数だったため、30秒という異例の短時間で実施することになりました。どんなに短くても、学生たちが想いを語る機会が必要だと考えた

からです。地域の文化や駅とまちのつながり、人々の想い…それぞれの想いが込められた力作を前に審査は難航しましたが、2次審査へ進む6作品を決定しました。

同年6月25日、2次審査を行いました。4人の審査委員による投票と公開議論により、最優秀作品が決まります。精巧に作りこまれた模型を使った学生たちの熱のこもったプレゼンテーションに、審査員の議論も白熱。審査を見に来ていた地域の人たちも聞き入ります。接戦の末、横浜国立大学大学院の学生による「風透る屋根の下で」を最優秀作品に決定しました。学生たちの次の舞台は、想いをかたちにするための実施設計へと続きます。

2次審査の様子は
こちら

